

令和元年度第1回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：令和元年10月4日（金）

午後2時～午後3時40分

場所：恵那市役所西庁舎3階 災害対策室

- 1 開会
- 2 委員の委嘱
- 3 副会長の選出
- 4 会長あいさつ
- 5 副市長あいさつ
- 6 総合計画後期基本計画の策定について
- 7 議事
 - (1) 総合計画の進行管理について
 - (2) その他
- 8 その他
- 9 閉会
- 10 会議の公開・非公開・・・公開
- 11 出席者

	氏名	選出団体等	備考	出欠
1	市川 祥子	恵那商工会議所		欠席
2	奥村 雅成	公募		出席
3	加藤 愛子	社会福祉協議会		欠席
4	塚田 太郎	地域自治区会長会議	副会長	出席
5	芝田 幸代	恵南商工会女性部		出席
6	鈴木 実	恵那職業安定所		欠席
7	服部 敦	中部大学	会長	出席
8	中島 豊己	十六銀行恵那支店		出席
9	—	連合岐阜東濃地域協議会		空席

- 12 傍聴者の数・・・1人

1 開会

■事務局（進行） 会議に先立ち資料を確認する。本日使用する資料は 4 点ある。不足資料があれば申し出てほしい。（1）会議次第、（2）恵那市総合計画推進市民委員会名簿、（3）資料 NO. 1 総合計画後期基本計画及び次期総合戦略の策定方針、（4）資料 NO. 2 平成 30 年度施策評価シート。

■事務局（進行） 定刻より少し前だが、これより令和元年度 第 1 回 恵那市総合計画推進市民委員会を開催する。本日朝に警報が出たが開催できた。本日の進行を務める企画課長の柘植です。よろしくお願いします。

なお、本日は市川委員、加藤委員、鈴木委員が所用のため欠席の連絡があった。また、名簿の一番下の連合岐阜東濃地域協議会の伊藤委員は所属団体の任期の関係で辞退届が出ており、後任を依頼中で、出席いただけない。今後後任を探していただく。

本日の会議は、恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、原則公開とし、会議録を公表する。本日の会議は 4 時までに終了したい。

2 委員の委嘱

■事務局（進行） 初めに、昨年度まで委員を務めていただいていた地域自治区会長会議の澤田様、十六銀行恵那支店の渡辺様は人事異動などで代わられたので、それぞれの団体から新たに候補者を選出していただいた。副市長から委嘱書をお渡しする。お名前を読み上げるので、自席でご起立をお願いします。

地域自治区会長会議、塚田太郎様。

[副市長から委嘱書を交付]

■事務局（進行） 十六銀行恵那支店、中島豊己様。

[副市長から委嘱書を交付]

■事務局（進行） ここでお 2 人から自己紹介をお願いしたい。

■塚田委員 地域自治区会長会議から来た塚田です。家は上矢作です。恵那の大井などとはちょっと違う。今、策定会議というのにも出ていて、そこの関連が頭に入っていないので、はっきりさせて臨みたい。

■中島委員 十六銀行の中島です。よろしくお願いします。

私は今年の 4 月に人事異動でこちらに来た。前任の渡辺が委員を務めていた。恵那市の発展に少しでもお力添えしたい。

3 副会長の選出

■事務局（進行） 澤田委員の交代により、副会長を選出する。恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱第 5 条第 2 項の規定により、副会長は会長が指名するとあるので、会長から指名をお願いします。

■会長 前年度と同様、地域自治区会長会議選出の塚田太郎様にお願いしたい。

■塚田委員 よろしくをお願いします。

[拍手する者あり]

■事務局（進行） 皆様からのご承認をいただいたので塚田様、前の副会長席へ移動してください。

4 会長あいさつ

■事務局（進行） 服部会長からあいさつをお願いします。

■会長 委員が 2 人代わられた。令和 2 年度内までになる。円滑に会議を進めたい。

5 副市長あいさつ

■副市長 市長は今日岐阜県の市長会の役員をしておりそちらに出かけている。代わりに私があいさつさせていただく。

恵那市の最近起こったことを少し話す。9 月 22 日に恵那市で最後の養豚場で豚コレラが発生した。恵那市は岐阜県の養豚数の 4 分の 1 を占めていた。恵那市で養豚していた 3 万頭、最終的には 5 つの企業体の 6 農場すべてで豚コレラが発生した。今のところ恵那市で飼育している豚は 1 頭もいなくなった。今後は、防護柵等を設置して再開に向けて動き出す。一番早くて 3 カ月後に再開できると思っている。また、岐阜県、国でも、ワクチンを接種することが決定した。それぞれの手続きによって今後岐阜県は優先的にワクチンを接種できることになっているので、できるだけ早い再開に向けて動いていただきたい。

嬉しいこともいくつかあった。9 月に入り、ポーランドのカヌーチームが恵那市でオリンピックの事前キャンプ地になるということを決定いただいたので協定を行なった。また、先日 WRC、世界ラリー選手権が恵那市を通ることが決定した。来年 11 月には多くの外国人が WRC を見に来訪される。ぜひその辺の受け入れ態勢をしっかりとしていきたい。

2021 年 1 月には国体が開催される。岐阜県で、スケートだけが開催される。恵那市としてしっかり準備していきたい。非常に多くのスポーツイベントが開催される。

また、来年 1 月から明智光秀の NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」が放送される。そのドラマ館が、岐阜県では岐阜市、可児市、そして恵那市の明智町で開催されるので、この機

を通じて多くの観光客に来ていただけるような段取りを進めたい。

明るいニュースもたくさんあるので、この追い風をたくさん受けて、恵那市をしっかり活性化していきたい。よろしくお願いします。

6 総合計画後期基本計画の策定について

■事務局（進行） 総合計画後期基本計画の策定について事務局から説明する。

[事務局から資料に基づき説明]

■事務局（進行） 質問等はあるか。

なければ議事に入る。進行は会長にお願いする。

7 議事（総合計画の進行管理について）

■会長 総合計画の進行管理について、事務局から説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 総合計画の3つの目標について1つずつ意見を伺っていく。1つ目の安心について。

■副会長 事前に資料をいただき、既に評価してあったので、もうできていると思って、聞いたら、市の職員が評価したものだと。今度は委員に評価してもらおうということだ。すごく人数が少ないが。

安心の、「災害から身を守る」、13ページ、評価はCで、串原、上矢作、笠置、中野方、飯地と、私もそうだが僻地という部分で不安があると。このことに関連して、よく地域の運営協議会や、市長と語る会でも出たが、国道沿いの倒木が、上矢作から行ったところで去年もあったが、中部電力に事前に切ってくれと言っても、中部電力は電線に架かる枝を切るだけなので。ところが最近岐阜新聞に載っていたが、事前に切ることができるのか。千葉県で被害があった。平成26年2月の大雪のとき、そこまで行けなくて木も倒せなかったことがあった。少しでも推進していかなければと思う。

■建設部長 倒木ということは、ライフラインである電力の確保が、公共施設を初め、一般家庭を含め、重要な問題であるというところから、電力会社も今以上に事前の危険回避として倒木にならないようにしていこうという考え方を持っている。岐阜県もライフライ

ンの確保ということで、市町村で同じ趣旨で道路脇の民地にある立木を伐採するときには県が電力会社と合わせて補助を出していく、市が受け入れればそれをやるという制度ができています。下呂市、飛騨市、郡上市、関市が取り入れている。恵那市でも、過去にそういうことがあったので、対応を考えていきたいと検討を進めているところだ。どういう方向でかはまだ決まっていないが。

■会長 5 ページの健康の維持。評価のあやみたくないのがあって、Aが付くとさも良くて何も改善しなくていいかのように見えるが、例えばこの項目は何も改善しなくていいのか。反省点はないのか。ここからフィードバックはなかったのか。

■医療福祉部長 さらに努力をしていかなければいけない。評価は評価として、機械的に付けているのでAになっているが、例えば健幸まちづくり事業といったものについては、スポーツができる環境、体を動かす環境を作らないといけない、そういうものに取り組んでいかないといけない、そういったことを進めている。食の関係でも、食生活改善協議会という一般の人が組織しているグループがあり、その方たちが精力的に活動している。今年のエゴマを使った料理も発表していただいている。そういうところと一緒にあって、支援しながらやっている。決してこれに満足しているということではない。今後さらなる努力をしたい。

■保険年金課長 市民サービス部長が欠席しているので代理で答える。特定健診は、評価にも記述がある。受診率は国全体の国保の特定健診では 60%を目指すという目標があり、恵那市は高い方だが 45.4%でまだ低調だ。受診率の向上を目的として取り組みをもっと強めていきたい。Aという評価だがまだ努力するところがあると考えている。

■会長 目標値の設定の仕方によってこうなってしまうということだ。全体的な意見だが、目標値の、市民満足度のようなアンケートに基づく評価は比較的高くなりやすく、改善効果も出にくいという傾向がある。アウトプット、実数がポツと出てくるようなものは多分当て込んであるので評価が出やすい。例えばこの項目は評価結果がはっきり出やすいものばかり並んでいるのでこうなる。これから評価項目のバランスも見ていくとき、満足度評価とアウトプットと、いわゆるアウトカムというのがあるが、どうバランスさせて評価項目にしていくのか。それがバランスしてないと、改善事項はあるのにAになったりする。満足しているように見えてしまう。そのあたりをどうバランスしていくか、評価のあり方も検討するといひ。

次に、8 の快適から説明をしてほしい。(15 ページ)

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問、意見があれば。

■副会長 13. 便利な消費生活を送る。移動販売車くるくるまめしょっぷ。平成 25 年に明智で出発式を行い、僕も区長だったので、一緒について人を呼び込んだ。その後、僕の家の下で 1 時頃に停まる。当時は 8 人買いに来ていた。ところが高齢化で、だんだん減って、妻に「たまには買いに行ってみて来い」という感じだ。思うに、あそこも見直さないと。今はカネ周さんが来てくれているが、申し訳ない気がする。ここに、「スーパーマーケットやドラッグストア等の進出も考えられる」で、もう一つ車が行き出した。だから、カネ周さんとか業者は、数字を見ても、平成 28 年 4,084 人から 3,480 人、2,701 人だから、少ないから止めるということではなく、何か検討しないと業者に申し訳ない。ルートも、町内の問題だが、最初に一番奥へ行って、その人たちが一番待っているの、商品が多いうちにそちらへ行った方がいいと思う。

■まちづくり企画部長 くるくるまめしょっぷは、恵南商工会へお願いして、商工会が 3 業者募って、そこが上矢作、串原に週 1、2 回移動販売をしている。私どもも減ってきていると認識している。事業開始したときは広範囲に自治会などを通じて声を掛けて希望者を募ってスタートしたが、その後、周知が地元には十分されていなくて、当初の利用者が死亡したりしてだんだん抜けていって、地域に声掛けが十分できていないようなので、また地域にお願いして周知して、新しい、本当に買い物に困っている人が利用するように、次年度以降取り組んでいきたい。

移動販売のほかに、高齢者の免許返納も、今年度の地域懇談会の多くの地域で、どうするのかという話があった。地域内の移動支援の充実も、地域外への買い物、通勤につながるの、検討していく。

移動販売は、バローホールディングが今年から岩村と山岡を対象に旨味屋ということで軽トラックを改良したもので実施している。民間の普通の経営の中でサービスが展開されてきている。その動向も注視しながら行政でできる支援も考えていきたい。

■会長 1 点聞きたい。評価のあり方に関して。12. 移動手段。目標が有償運送だけになっているが、項目は移動手段全般についてだ。施策が総合的な体系になっている。項目、目標、事業体系がアンバランスだ。評価の形としておかしい。果たして本当に D なのかどうかさえ分からない。有償運送としては D なのだろうが、そのほかについては評価していないので。A B C D という評価がどの程度見ているものなのか疑問に感じるところがある。後期総合計画を見直す中で検討もされた方がいい。

同様に、施策がすごく少ないところと多いところがある。なぜこうなのか。本当にこうなのか。13. 買い物。事業が 1 つ。本当にこうなのか。多分、移動施策も含めて、この項目への対策は総合的にあるはずで、これだけじゃないような気がする。この辺、整理が必要だ。

森林の話もそうだ。施策が総合的になっているが、事業はこれ 1 つ。体系としての整理

が、もしかしたらほかにも入るけど入ってないかもしれない。もっと整理できると分かりやすくなると思う。意見だ。

■まちづくり企画部長 今年この施策評価でA B C Dと今後の方向性といったところで、内部でも検討した中で、同じような意見が出た。元々前期の基本計画ではそういった面で課題があると感じている。今回の推進市民委員会でも、同じような意見が出たので、後期基本計画ではこういったことにならないように、しかも進行管理が客観的に見てもう少しうまくできるようにしたい。後期基本計画に反映させたい。そういう意味で意見を出しにくいところはあると思う。

■会長 最後の活力の項目を説明いただきたい。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問、意見があれば。

■奥村委員 中学校の再編。30 ページ。「中学校教育においてより良い教育環境を提供するため中学校の再編に向けた取り組みを検討、実施します」とある。再編というのは何を指しているのか。統合のことか。

■事務局 そうだ。

■奥村委員 統合というのは、いきいきと暮らす、子どもの活力に効果が出るのか。文字としては、より良い教育環境を提供するとなっているが。私は個人的には分散して近くに充実した教育環境があった方がより良い教育環境を与えることになると思うが。全般に、そもそも設定そのものが、事業内容が、どの程度掘り下げられたのか。これがより良い教育環境を提供すると言われてしまえば、ああそうかと、サッと行ってしまうが。なぜより良い教育環境を提供するということになるかという議論があったのか、知りたい。この項目に限らず。

それを議論する時間はないと思うので。今の総合計画も加味していただくべきだと思う。特に地元の人にとっては、学校が近くにあるかないかとか、子どもが安全に通えるかどうか直結するので例として挙げた。そういう観点での総合計画をお願いしたい。

■事務局 御意見としていただき次の計画につなげたい。

■芝田委員 私は今、民生委員をと言われている。民生委員とは何かと考えると、お年寄りのことを考えればいいのかとか、声かけすればいいのかと思ってはいたが、維持可能な社会というのはそれで、大人から子どもまで満足しなければいけない。それも難しいと思う。この評価は控え目だと思う。ありがたいと思っている。

■中島委員 9 ページの、理念、安心の、医療と救急を充実するというところ。先日もマスコミでも公立病院を今後どうするのかという話が出ていた。恵那市は大変広い地域なの

で、市立恵那病院が中核になって医療を支えていると思うが、恵那市内には救急と呼ばれる病院はほかにもあるのか。

■副市長 先日新聞で再編を促すという国から公表があったので、どうしてこういうことが起きてきたか、恵那市がどういう立場に置かれているか、どの時点で起きてきて今があるか、説明する。

■医療福祉部長 市立恵那病院のことが記事に出た。地域医療構想で、恵那市は東濃の圏域で医療の関係の構想がある。この対象が、公立、公共的な病院。かつ、高度急性期、急性期の病床を持っているところ。で、20床というのを県が定めている。それを超えているところで、どういう診療科目があるか、近接にどういう病院があるかという条件で病院をピックアップした。その中に市立恵那病院が入った。ほかに東濃圏域では、坂下病院、東濃厚生病院、多治見市民病院の4つが検討の対象だと公表された。しかし、それぞれの特色、地域医療を確保する中でずっと話をされてきたが全然進んでいない。それを厚労省が、進まないで名前を公表した。行政側、市民も含めて話し合いをしてきた中で、市民に不安を与えたので、皆さんに申し訳ないと思っている。しかし、市の面積が広いところで、地域の実情があるので、この圏域の中で今後も話し合っていかなければいけない。救急病院は、市立恵那病院、上矢作病院の2つ。

■副市長 もっと分かりやすく。

■商工観光部長 地域医療構想は、元々財務省から医療費抑制の観点から厚労省に要請があって動いている。特に救急については、医療点数がすごく高いことと、医者が救急医療を実施したいという強い思いがあり、病床数が過剰になっている。反面、高齢化が進み、慢性期の病床や介護期の病床が今後多く見込まれるにもかかわらず、特に若手の医師は高度医療がやりたい人が多いので、恵那市民病院も救急があるが、特に高度医療が多いところは、県立多治見病院、中津川も一部入るが、高度医療に医療費がたくさん付く、そういうベッドが多いところがある。国はベッドの数が、高度医療、救急医療のベッドを減らして、慢性期と回復期のベッドを高齢化を踏まえて増やしていきたい。回復期や慢性期については、そんなに先生方が付き切りの必要がないが、点数が低い。病院経営からするとあまり良くないが、実際の流れからいくと適正ではないので、そこを適正化しようという動きだ。

医療圏は岐阜県では5に分かれていて、東濃が1つだ。その医療圏の中で救急と慢性とか、役割分担をきちんとしていこうという中で、恵那病院も中津川市民病院も多治見病院もそれぞれ救急を持つ必要がないという議論がある。役割分担して適正なベッド数に導こうという議論だ。

■奥村委員 いつもそもそも論になってしまうが、以前の評価シートと変わっているが、ABCという評価で上げられた理由がよく分からない。どう表現するかの問題で、前の評

価シート、評価のあり方と何も変わっていない。変わらなくていけないことはないが、問題は、アウトプットの峻別、区別がそもそもできてないと思う。アウトカムは、気持ち的な結果や成果にどう結び付いたかが見える資料だ。アウトプットというのは、単にこういう結果になったということだ。ここが混然一体となっている。それはいいが、結局総合計画で何を指すのかが、この評価項目、評価結果からは、その成果にどう結び付いたのかが、読み取れる部分が少ない。読み取れない部分が多い。これは多分項目、アウトプット、アウトカムの区別にあまり注力してないせいだと思う。

一番最初にいただいた総合計画の資料に、基本構想があり、将来像、目指すまちの姿ということで人口を挙げている。平成 37 年の目標人口、47,400 人。基本的に評価がこれに収れんされないとだめだと思う。それぞれの評価がこの目標人口に対してどう結び付いていくのかが、今の総合計画の作業になって結び付けられるようにしていただきたい。

たまたま調べていたら、地方版総合戦略策定のための手引きというのが内閣府の地方創生推進室から出しているが、これに忠実に評価、KPI を作成されたということだと思う。ここには、総合計画と地方版総合戦略との関係という項目があり、地方版総合戦略は、人口減少克服、地方創生を目的としている、と。総合計画は各地方公共団体の総合的な振興、発展などを目的とする、と分けている。当然、地方版の総合戦略というのは後から出てきて、内閣府が後から手を突っ込んだということだと思うが、そういう区分けになっている。これがいいか悪いかも私は気になるが、今日配られた資料の中にも、恵那市総合計画後期基本計画及び時期総合戦略の策定方針と。これは、総合計画と総合戦略を明確に分けているということになるんですね。つまり、地方版総合戦略というのはあくまでも人口維持である、それを前提にしているということだと思うが、総合計画というのは以前配られた基本構想、安心・快適・活力、これをやるということで、区分けする話なのか、この中に総合戦略として、一般的に計画を立てれば戦略を立てるわけだから、そういうつながりかなと思っているが、どうもそこは恵那市としては別々のもののように読み取れる。この辺はどう理解したらいいか。

■事務局 恵那市としては、総合計画を作る中で人口についてももう一度振り返りをする。47400 人とか 450 人という数字が出てきているので、そこに達することが多分今の推計ではできないと思っている。ただ、総合計画の見直しをして次期総合計画を作る中で、やはり人口については触れなければいけないと考えている。また、今必要とされているのは、人口減少克服と地方創生という部分が、総合戦略では課題としている部分なので、人口減少対策部会というのを設けて、人口と地方創生について検討する部会を設けている。総合計画の一部を切り取ったものが総合戦略であって、その中で強弱を付けて総合戦略は表現していきたいと考えている。

■奥村委員 そうすると、この資料に基本構想が書いてあって、目標人口、いろんな戦略

だと。それ以外に戦略があるのか。

■事務局 それ以外の戦略は設けていない。

■奥村委員 そうすると、要は人口維持、できれば増やす、その目標の一つが 47,400 人ということになるんですね。

■事務局 そうだ。分野としては、総合戦略は人口減少対策と地方創生に絞った計画になる。総合計画は総花的、全方位型、守備範囲が広い。

■奥村委員 だとすると、表現の問題かもしれないが、この冊子の総合計画の中には人口しか出てきてないので、総合戦略の中ではこれ以外の違うことが書いてあるというものがあるのか。

■事務局 策定に着手したところだ。これからだ。あくまで総合計画との整合性を取りつつ総合戦略を作っていく。抽出して編成するというイメージだ。

■奥村委員 では総合戦略として新しいものが出て来るのか。

■事務局 そうだ。

■奥村委員 そうすると、人口減少克服、地方創生を目的とした別の戦略が出てくると。

■事務局 はい。なお、総合計画とともに、地方版総合戦略も恵那市は作っている。ただ、総合計画と総合戦略の内容が全く同じになっているので、あまり総合戦略の意味がない状態になっている。

■奥村委員 そうするとこれを評価している項目はそれを先取りして評価しているということか。総合計画は総花的だという話があったが、総花的な項目について。

■事務局 総合計画と総合戦略が今全く同じなので、総合計画を評価するイコール総合戦略を評価するということにもなる。

■奥村委員 では最初から、総合計画があってその中に総合戦略をその下に置いて、一つが人口、一つは人口維持のためということもあるかもしれないが安心・快適・活力という組み立てになぜならなかったのか。

■事務局 その経緯は私は分からない。

■会長 時期が違うからだ。総合計画が先にできて、総合戦略を国が後で作ったから、バラバラになっただけだ。

■副市長 そうだ。総合戦略自体が後から出てきたということだ。

■会長 今度見直すときにそれを合わせて整合性が取れるように見直す。そうはっきり言った方がいい。

■副市長 元々総合計画を作っている途中で総合戦略を国が。

■奥村委員 分かりました。私は分かっている質問している。だから、そういうことも含めてこの中できっちり説明して、枝葉末節、評価されているからいいじゃないという話だ。そういう話がどうしても出てくる。いろいろなアウトプット、アウトカムの話からつなげ

ていくと、いろいろな整合性がない部分があくつもあり、質問している。そこはもう一つ整理して、皆さんにも開示して、総合戦略と総合計画の関係をもう少し明確にして総合計画を進めていただく方がいいと思う。

■会長 一通り意見をいただいたので、最後に一言。評価シート、個別のシートがある。総括表のようなのが最初に載っていた方が分かりやすい。次回そうしてほしい。

議事が終了したので事務局に進行を返す。

8 その他

■事務局 今基本政策 24 を見ていただいて意見をいただいたが、その他何か御意見があればいただきたい。

■奥村委員 今の話に関係するが、この推進委員会でどういう目的で趣旨でやっているかはいろいろな資料をいただき、要綱の第 2 条に、基本計画の変更等重要な事項について市長に提言するというのがあると。場合によっては分科会で検討するということがあったので、その中で個別の提案をしたいと思っていた。ただ、その話をする中で、今回の推進市民委員会ではそれはやらないという返事をいただいた。そのことも含めて質問状や提案書を 3 回個別に出した。結局やらないということについての明確な理由がまだ肚に落ちていない。ただ、やっぱり変更ということになるのか重要な事項ということになるのか、個別の提案を取り上げていただきたいので次に申し上げる。

蒸し返しになるが、さっきの話で、人口のことを総合戦略として課題にしているわけで、これを取り上げる必要があるということで、途中で移住定住施策についての話が中心になってくる。多分そういうことでこれは軌道修正はされたのかなと思った。結局、今また元の各個別の項目についての評価、しかも見立てが違うような形で出てきた。それはそれでそういう流れかなと。で、移住定住施策に変わった経緯があるとか、それもこういう委員会では、明確にこういう理由でということをはっきりと説明されてくるべきだったと思う。これも今の総合計画に反映させていただきたいということで、加えてお願いします。

総合計画そのものについても、調べたところ、富士通総研のレビューだが、地方自治体の最上位計画としての総合計画の改革というレポートがあり、これは一面なのか全体にそういうことが言えるのかも、民間のシンクタンクの話なので、疑ってかかるところはあるかもしれないが、総合計画そのものが形骸化してきていると。機能劣化の漂流を続けてきたという言い方をしている。この理由はいくつか挙げている。課題の設定の仕方にも問題があったかもしれないし。ただ、総合計画を作るうんぬんというのは古い。2011 年から努力目標に変わっているのだが、やってないところもある。やる上では、状況の変化も含めて、総合計画はどうあるべきかということをやはりそこからスタートして議論していただ

いた方が、今このときに合った計画が立てられるのではないか。良い点、悪い点をここに書いているので紹介する。

良い点は、人口減少問題の抜本的対策の重要性を顕在化させたことがいい点だと。その通りだと思う。2 つ目は、政策検討の基礎であるデータの徹底的な分析の重要性が確認された。注目すべきは悪い点だ。1 つ目は、致し方ないところもあるが、策定期間が極めて短かったと。実感がなかったということ。2 つ目は、ミクロの視点での項目が全部集まったらそれでいい結果が出るかどうかという。私は民間の会社にいるいろいろな言葉で言ってきたが、いろいろな細かなものを集めて評価して、結果として全体として効果、結果に結びついているかどうか。必ずしも結びついてこないケースがあるということ。これは多分今日議論したシートの中に表れている。市町村、地方自治体も含めて。今の総合計画の中で、これも一度読んでもらった方がいい。

具体的な提案について。こういうことが提案できるのでここで言ってもらったらどうかということをはかからもいただいた上で私が出席するに至ったのだが、結局、働く場所、賃金、そういうところに集約されてくる。総合計画の目標が。その上で、産業振興や、経済的に民間も含めて活発になることが大きな課題として、そこだけ重点的にということではないが、一つ大きな課題なのかなと私は思っている。具体的には、ごみの焼却上の契約期限、耐用年数の話もたまたま聞いて、それをそのまま延長するということになっているようだが、であればほかの方法もあるんじゃないかということを一言言ったら、じゃあそういう案があるならここへ出て言ったらいいという話になった。それについての話をする。

つまり、生ごみを使ったバイオマス発電を中心にして、農業の 6 次産業化や、企業の誘致や、あるいはここで起業してもらおうとか、エネルギーにかかわる事業に結びつきやすいような発電事業、これは自然再生エネルギーなので、今の世間の方向性にも合うし、ごみの焼却炉の問題解決の一部にもなるかもしれない。これは個別には企画部に話はしているが、そういうことの個別の提案を、せっかくの機会なのでさせていただくつもりで出た。そのほか、このことについては、いろいろなところに派生することだ。民間だけでやらせるのか、ごみの集荷を考えると行政がかかわることは必ず出てくる。ただ、事業主体を民間だけにするのか、PFI みたいな形でやるのか、いろいろな方法がある。そういう検討をスタートしてみたらどうかということをお願いしている。

最終的に人口維持するには働く場やお金の問題、少なくとも市民が貧乏になることだけは避けていかなければならないと思っている。

■まちづくり企画部長 奥村委員が推進委員になられた経緯から昨年度のやりとりも含めて説明していただいた。元より個別提案できないについては、今までは「できません」という話で、「いや、こちらとしては意見等を含めた中で提案いただければ」ということで、今回個別に何回か話を聞く中で、現在の施策の 23 の持続可能な社会をつくると

いうところに、地域内で経済やエネルギーが循環する社会を形成し、地域の自立と活力を高めるといふ施策にもあるので、せつかくそういう技術や考えを持ってみえるなら、委員会の場で提案いただき行政側がそれを受け止め進めていくということで今日に至った。

恵那のエコセンターの状況について触れておく。元々現在久須見にあるエコセンターは、30年間の操業ということで、30年以内の期限が令和4年で、令和4年以降どこかでごみ処理の施設を造らなければならないということをも市民からお聞きになって、それではということで今日に至った。これについては、今年3月に地元との協議を行った中で、操業期間を10年間延長して令和14年までとするということで期間的な余裕ができた。今後の進め方は、ごみ処理施設には膨大な費用がかかるので、現在中津川市と広域で施設を造って何とかできないかということで、研究協議を今年の5月から開始した。ごみ処理施設の方法の一つの提案ということで今日いただいたので、見る限りなかなかいい方法かなと思っているので、研究を進めていきたい。

■奥村委員 私の立場としてできるとかできないとか、ずっと私がこの話ばかりしてきたということではないので、可能性があるのかどうかのたたき台の場を作ってみませんかという話だ。

■事務局（進行） ほかに質問等あるか。

次回の推進市民委員会の開催は、翌年3月を予定している。

本日は予定の4時前に終わることができた。ありがとうございました。

9 閉会

■事務局（進行） 最後に、塚田副会長に閉会のあいさつをお願いします。

■副会長 8人の会議だと思っていたら市の部長さん方もおられて緊張した。勉強になる意見が出た。市からも質問に対して分かりやすく回答していただきありがたかった。

これで会議を閉じる。

[閉 会]